

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL62 平成23年10月

将来イメージ
(サービス付き高齢者向け住宅計画中)



真誠会セントラルローズガーデン
平成23年9月1日開所

けやき通りの 米子中央ホスピタウン誕生!

米子中央ホスピタウンは、医療法人、社会福祉法人真誠会が創設した河崎の米子ホスピタウン、大崎の弓浜ホスピタウンに次ぐ、三番目のホスピタウンです。

平成23年9月1日に、この米子中央ホスピタウンには第1期事業の真誠会セントラルローズガーデンは開所いたしました。

真誠会セントラルローズガーデンにはリハビリ強化型通所介護、介護予防センター、認知症対応型通所介護、健康クラブなどがあり、真誠会の23年にわたり蓄積した技術と知識を結集して作られた施設です。提供する空間も、サービスも最高のものをイメージしております。

また、この施設には地域包括ケアセンターがあり、主任介護支援専門員、訪問看護師、訪問介護士、理学療法士、運動療法士がチームを作り、米子市内へ総合的な在宅サービスを提供できる体制を作っております。ここでは、あらゆる介護保険の相談、高齢者の生活に関する相談の窓口にもなっております。

近い将来このホスピタウンにはサービス付き高齢者住宅(ビル)の建設を予定しており、これが完成すれば、健康な時から、介護保険サービスが必要な状態になっても広い範囲で皆様の安心な在宅生活を可能にすることと思います。

このようにして出来るホスピタウンは、これから20年先のまちづくりの真誠会モデルとして皆様にご提示するものです。

私は、高齢者の皆様方が、そして近い将来私たち自身の将来が「安心して生活できるまちづくり」に、これからも挑戦して行きたいと思っております。



社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢

米子中央ホスピタウン開所

【竣工式】

米子市福米西小学校隣地に計画中であった、米子中央ホスピタウンのセントラルローズガーデンの竣工式が8月25日(木)、地元自治会三役の皆様および関係者を招いて行なわれました。



春欄会の皆様による祝賀の舞



真誠会職員で集合写真

【地域見学会】

8月27日(土)、8月28日(日)、地域見学会を行いました。両日とも晴天に恵まれ、二日間で600名の方が見学にこられました。カキ氷やスーパーボールすくいなど、イベントも大人気でした。



屋外のイベントでは子どもたちで活気にあふれました



風船プレゼントや金魚すくい、スーパーボールすくいなど催しました



けやき庵では抹茶が振る舞われ、近隣の外国の方も「和」のおもてなしに感激されました

【開所式】

9月1日(木)には15名の利用者の皆さんと一緒に開所式を行いました。開所式が始まると空は眩しいばかりに晴れ渡り、前途明るい、希望に満ちたスタートとなりました。



福米西地区社会福祉協議会会長、利用者様、理事長、事業所長が開所のテープカット

平成23年
9月1日
開所

真誠会セントラルローズガーデン管理者の思い

真誠会セントラルローズガーデンは、お越し頂いた皆様が笑顔になれる施設にしたいと思えます。その為には、「楽しみ」を大切に考え、職員の明るく元気な声のもとサービスを提供していきたいと思えます。

高齢者の方から「若い頃は楽しかったなあ」という声をよく耳にします。しかし、私たちは「歳をとってからも楽しかったな」と言って頂けるサービスをしていきたいのです。

「笑う」「楽しい」その一瞬の輝きを大切に、その輝き…若き青春時代と同じ輝きを感じていただくために私たちは全力で支援させていただきます。

また専門的な視点から利用者一人ひとり・ご家族の生活を支えられる通所サービスを提供していきます。

平成24年に変動する介護保険サービスにおいて地域包括ケアシステムの展開が始まります。私たちは地域の方々とふれあい、地域の方々と楽しみ、地域の方々と笑い合えるサービスの展開をしていきたいと思えます。また、けやき通りという素晴らしい環境の下、地域の仲間に入れていただき、子供から高齢者まで誰もが「笑顔」で関わりあえる町づくりの地域貢献・連携を「開かれた施設」として行っていきたいと思えます。

楽しく通える場所、一人一人が主役になれる場所、和やかな空間、そしていつまでも若く力強くをコンセプトにしています。

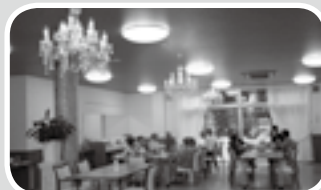


管理者
山根 賢一
介護福祉士
介護支援専門員
認知症ケア専門士

米子中央ホスピタウンの事業所

【リハビリ強化型 通所介護 真誠会セントラルローズガーデン】 定員／20名(将来40名) 対象／要介護認定を受けられた方

9月から開所した真誠会セントラルローズガーデンは、予防、介護、認知症を支える複合型の通所サービスです。健康増進から、介護予防、リハビリまで真誠会セントラルローズガーデンは富士見町のローズガーデンの兄弟施設です。



【介護予防 通所介護 セントラル介護予防センター】 定員／20名(将来30名) 対象／要支援認定を受けられた方 いつまでも若く・力強く

- ☆安全で効果的な体操や運動をご指導いたします。
- ☆転倒予防プログラムなどバランスを補う体操等をご指導いたします。
- ☆筋力強化：主に下肢のマシントレーニングなども実施します。
- ☆有酸素運動：エアロバイク・ウォーキングマシン各種全身を使う体操を実施します。
- ☆体力測定・個人プログラムの提出：リハビリや運動指導の専門スタッフが体力測定を行い個人の状態にあった体操・運動プログラムを作成します。



【健康クラブ】対象／医師による運動制限のない方 がいなみっく運動プログラムで、ネタボ対策！

無料体験できます。お気軽にお越しください。
安全で効果的な体操や運動を個々にあったプログラムで運動の専門家がご指導します。

- ☆マシントレーニング ☆エアロビクス運動 ☆各種運動教室（その他にも毎日楽しい教室を開催）

〈がいなみっく予防トレーニングを行っています〉

米子市の助成金事業です。市からの補助を使って格安で各施設で運動することが出来ます。運動することの楽しさを体感し、運動効果を理解してもらい運動習慣につなげるため「セントラルローズガーデン」で、筋力トレーニング・有酸素運動・ストレッチなどを3ヶ月間行う教室です。

米子市にお住まいの65歳以上の方で医師による運動制限のない方であれば週に2回3ヶ月、1回あたり150円でご利用できます。（要支援・要介護認定の方はご利用できません。）

【認知症対応型通所介護 セントラル脳活性クラブ けやき庵】 定員／10名(将来12名) 対象／要介護認定を受けられた方



けやき庵は認知症専門通所施設です。
日本の「和」をイメージした和やかな空間で「おもてなしの心」を大切にしています。
真誠会は7年前より認知症に対する専門的な取り組みを行い、グループホーム青松庵をはじめ若竹庵、童謡の里、ダンスダンスなどの施設で実績をつみ、認知症の学会でも高いレベルの発表をして山陰の認知症リハビリのリーダーシップを取っております。
今回のけやき庵は茶室をイメージした施設であり、静かなたたずまいの中で心を癒しながら、抹茶による脳の活性をテーマとしております。



もちろんその他の多彩な脳活性プログラムをご用意しております。

【米子中央地域包括ケアセンター】

組織は小さいのですが、介護支援専門員、訪問看護師、理学療法士、訪問介護などのチームケアが行われ、介護保険に関するあらゆる問題解決に立ち向かうことができるようになりました。

またこの組織は、来年から始まる地域包括ケアシステムの中核として、米子中央ホスピタウンを拠点にひろく米子にサービス提供してまいります。

社会福祉法人 米子中央ホスピタウン TEL 0859-30-3330 FAX0859-30-3331

683-0805 米子市西福原8丁目16-66 (福米西小学校隣) HP: <http://www.hospitown.or.jp/> E-mail: info@hospitown.or.jp

高齢者生活を総合的に支援する 高齢者生活支援隊誕生!



高齢者の二人暮らしや、一人暮らしでは、介護、通所リハビリなどの介護保険サービスを受けることはできても、日常生活では買い物や毎日の食事でも困ることが多いと思われます。言葉通り、「買い物難民」という言葉も生まれたぐらいです。

このような高齢者の苦痛を少しでも少なくするため、私たちは、「高齢者生活支援隊」を作りました。9月1日の日本海新聞に、両面(2頁)を使った全カラーのキャンペーン広告を掲載しました。お読みになった方も多くいらっしゃると思います。

今までも配食サービスや、お買い物代行サービスなどはありませんでしたが、「高齢者生活支援隊」はこれらのサービスを総合的にすべてを扱うという点が今までの組織とは違うところです。

具体的には**1 昼・夕の配食(真誠会弁当)**、**2 オムツの宅配・販売**、**3 お買い物代行**、**4 住宅改修**、**5 福祉用具のレンタル・販売**などです。また、私たちの発案だけではなく、高齢者の皆さんのリクエストに応じ、今までになかったきめ細かいサービスが提供できる組織に育てたいと思っています。

近い将来は、「高齢者生活支援隊」に電話をすれば、高齢者の皆さん、障がい者の皆さんがお困りなこと、助けが必要なあらゆることに対し、幅広く中身の濃いサービスが鳥取県西部全体に提供できるようにしたいと思います。

このようなサービスを提供することで、高齢者、障がい者の方の在宅生活が画期的に便利な生活を送ることができることを「在宅革命」というキャッチフレーズで推進したいと思います。

生活支援のことならどんなことでもご相談に対応したいと思います。お気軽にお問い合わせ下さい。



主任介護支援専門員
看護師 坂本真鈴美



【昼・夕の配食】 【真誠会弁当】

真誠会の管理栄養士が吟味してプロデュースしたもので、

栄養バランスだけでなく真心、おもてなしの心がこもった弁当です。

配達の前日の16時までにご予約いただくことで、365日対応いたします。(事前の登録が必要です)

腎臓・血糖値が気になる方にも特別食の対応が可能です。その他に、キザミ・一口大、おかゆ、軟飯、粉味噌汁も個別対応いたします。(別途費用必要)



【お買い物代行】

お買い物代行サービスは、日用品、生活に必要なものを、スーパー等で購入し、ご自宅までお届けするサービスで、一般的に今までに提供されていたサービスと比べれば格安で提供されますので、お気軽にお電話ください。

【住宅改修】

住宅改修は、住み慣れたご自宅で生活するため、段差解消や手すりの設置など住環境改善のための改修を承ります。

理学療法士が訪問し、必要とする方にとって最適な住宅改修プランをご提示いたします。



【オムツの宅配・販売】

生活支援隊のオムツをご購入の場合にはオムツに関する特別のトレーニングを受けたスタッフが、オムツの選び方から使い方について指導いたします。

【福祉用具のレンタル・販売】

生活支援隊がお世話させていただくベッドは一流ブランドです。また、ベッドをはじめすべての福祉用具は単なる道具ではなく、ご利用者の身体の一部となりますので、最適な福祉用具を選んで、使い方についても詳しくご説明いたします。



真誠会 高齢者生活支援隊
福祉用具・オムツ宅配・住宅改修
TEL.0859-24-4652 9:00~18:00

配食(真誠会弁当) お買い物代行
TEL.0859-29-0222 8:30~17:00

※お気軽にお問い合わせください。※電話番号はそれぞれの目的で異なります。※電話番号は切り取って電話のそばに保存ください。

日本看護協会出版会の取材『看護』に掲載 そして、「がんばろう東北」が全国に



8月18日(木)、8月19日(金)、日本看護協会出版部の取材がありました。

日本看護協会出版会は、看護業務に携わる専門職への情報提供や卒前卒後の継続教育の資料提供、看護関係の書籍・雑誌および視聴覚教材の出版並びに販売、看護師向けセミナーの企画運営等を行っている会社です。日本看護協会の協会誌である『看護』は、約7万部の出版部数を誇ります。

その雑誌のグラビアに真誠会が取り上げられることは、この上ない名誉なことです。

取材班は、真誠会での回診風景、スタッフが患者さんと一緒に歌を歌っている風景、訪問看護、生活支援隊の在宅でのオムツの指導、スタッフが「がんばろう東北」Tシャツを着ている姿などをたくさん取材してくださいました。



好評販売中!

1300円でTシャツを販売しています。そのうち、300円が義援金になります。それに真誠会が200円を上乗せして500円にして東北へ送ります。ご希望の方は、真誠会窓口にて。

真誠会では7月から「がんばろう東北」Tシャツを准制服としてスタッフが着用して仕事をしています。この『看護』の雑誌でもスタッフ5人が「がんばろう東北」Tシャツを着ている写真が掲載されています。お陰様で真誠会の「がんばろう東北」Tシャツが日本全国津々浦々まで伝わることになりました。今回の大震災で被災された福島県をはじめとする東北の看護師の多くが、この山陰、米子のTシャツ運動を目にして喜んでいただけるのではないのでしょうか。売名でもなく、利益のためでなく、復興に対する強い願いを込めて、小田理事長が直筆で「がんばろう東北」の文字を書きTシャツを作りました。スタッフも同じ気持ちで、仕事をしています。これからもその思いを持ち続けたいと思います。

今回の「真誠会グラビア特集」が載った『看護』は9月号に掲載です。このホスピタウン便りが発行されたときには、すでに日本中の看護師の目に留まっていると思いますので、多くの方にご高覧いただければ光栄です。

24時間対応の 定期巡回・随時対応サービス事業 モデル事業所に選ばれる

手上げをしました。平成23年9月22日に米子市役所にてプレゼンテーションが行なわれ、真誠会では小田理事長自らプレゼンの発表を行いました。

そして9月26日選考された3事業所のうちの一つに社会福祉法人真誠会が選ばれました。これにより真誠会は弓浜ホスピタウンと、米子中央ホスピタウンの二つの拠点を中心に、12月1日から3月31日までの4ヶ月間、24時間対応サービスのモデル事業を開始することになります。このモデル事業の結果を分析して、来年4月から24時間対応サービスが米子市で実施されるものと思われます。もちろん真誠会もこの4月から本格的に24時間対応サービス事業に参加する計画です。

しかしながら真誠会が計画しているのは、通常の24時間対応サービスだけではなく、各地域での認知症に対する啓発活動、各地域での助け合いの社会を構築する活動を展開したいと思っています。

また、実際に介護保険による24時間対応サービスといっても高齢者が一人で生活するためには介護保険によるサービスだけでは日常生活を維持する上で困難なことが多いのです。

そのような日常生活上の困りごとを支援するため、真誠会グループに高齢者生活支援隊が結成されました。配食、住宅改修、お買い物代行サービス、見守り、安否確認サービスなどを開始することになりました。

平成24年4月より地域包括ケアサービスが展開されます。これは今後の介護保険において一番大きな変化の始まりだと思います。

それに先立ち米子市では「24時間対応の定期巡回・随時対応サービス事業のモデル事業」を実施するためのモデル事業所の選定が行われました。

このモデル事業には米子市内の7事業所が

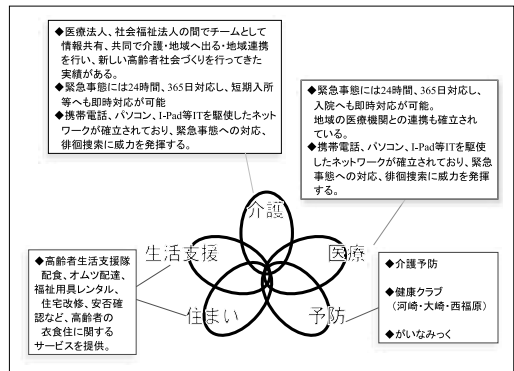
手上げをしました。平成23年9月22日に米子市役所にてプレゼンテーションが行なわれ、真誠会では小田理事長自らプレゼンの発表を行いました。

そして9月26日選考された3事業所のうちの一つに社会福祉法人真誠会が選ばれました。これにより真誠会は弓浜ホスピタウンと、米子中央ホスピタウンの二つの拠点を中心に、12月1日から3月31日までの4ヶ月間、24時間対応サービスのモデル事業を開始することになります。このモデル事業の結果を分析して、来年4月から24時間対応サービスが米子市で実施されるものと思われます。もちろん真誠会もこの4月から本格的に24時間対応サービス事業に参加する計画です。

しかしながら真誠会が計画しているのは、通常の24時間対応サービスだけではなく、各地域での認知症に対する啓発活動、各地域での助け合いの社会を構築する活動を展開したいと思っています。

また、実際に介護保険による24時間対応サービスといっても高齢者が一人で生活するためには介護保険によるサービスだけでは日常生活を維持する上で困難なことが多いのです。

そのような日常生活上の困りごとを支援するため、真誠会グループに高齢者生活支援隊が結成されました。配食、住宅改修、お買い物代行サービス、見守り、安否確認サービスなどを開始することになりました。



辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

奥の細道

今年の職員旅行は7月に東北に行つて来ました。本当はボランティアに行こうかと思つていましたが、夏の暑い時に炎天下で瓦礫の処理をやるどころがダウンしてしまいそうだったので、それは若いもんにかかせて我々はその代わりに東北を旅行して、たんまり金を落として土産をこれもたんまりと買おうと計画しました。ルートは宮城、岩手、青森をレンタカーで回つたのですが、仙台では地震そのものの影響は全く感じられず、やはりその後起こつた津波と放射能による被害が如何に大きかつたかを実感しました。ボクも職員たちも殆ど初めての東北でした。その内のいくつかを報告します。

松島

松島にも津波が来ましたが、幸いにも島が防波堤の役目をして一部を除いてほとんど被害を受けておらず、この日もたくさんの観光客が押し寄せていました。ボクらも船に乗って島巡りを楽しみました。潮の香りが懐かしくて生まれ故郷の佐世保の九十九島を思い出してしまいました。島の様子も観光船もそして餌の海老せんを欲しがつたカモメも九十九島と一緒にいました。急に里どころがついてボクはずっとデッキに出て、潮風を受けていました。松島は松尾芭蕉の「松島や ああ松島や 松島や」という句で有名ですが、この句は実は後の人がちゃっかり作つた句で芭蕉はこんな安っぽい句などは詠みません。でもこの句のおかげで松島は全国区になりましたが、海や島の素晴らしさでは浦富海岸がはるかに勝っています。芭蕉が山陰に来ていたら浦富海岸も全国区になっていたのになあ。



平泉

ちょうど世界遺産になつたばかりでここもたくさんの人でした。お目当ての金色堂は駐車場からかなり山を登らねばならず、こんな山奥にあつたとはびっくりでした。金色堂は建物の中に堂ごと安置されていて、正直しょぼかつたです。期待しとつたのになんだこれがそうかとちょっとがっかりしました。(せつかく世界遺産になつたのに、不謹慎ですいません。) 仏像は本尊の阿弥陀如来とその周りに何体か菩薩がいて、それを持国天和増長天が護つていてと仏像のテコ盛りでちょっとやりすぎじゃないのと思つてしまいました。それにしても驚くのはこんな辺鄙な山の中に金ピカの仏堂を作つたことです。奥州藤原氏はよっぽど裕福だったのでしょ。しかもこれは敗者の文化です。外国では普通は敗者の文化は勝者の手により徹底的に破壊されて抹殺されてしまいます。それが全く無傷で残つたのが不思議に思いました。頼朝はよっぽど信心深かつたのか、あるいは日本人そのものが昔からやさしい民族だったのでしょか？ 近くには義経終焉の地の高館があつたのですが、スケジュールの都合で行けません。ここで芭蕉は「夏草や 兵共が 夢の跡」の句を詠んでいます。奥の細道の句の中でボクの一押し句です。無理してでも行つとけばよかつたと今になって後悔しています。



旅行はこの後、八幡平、十和田湖、奥入瀬へと行つたのですが、八幡平は眺めもよくてとてもよかつたです。みんな行く先々で東北土産を一杯買い込んで、少しは東北復興に役に立つたかもしれません。年に1回のリフレッシュできた旅行でした。

いえはら歯科



2011 夏

いえはら歯科
院長 家原 猛

この夏、青森を訪ねる機会に恵まれた。昨年 12 月 4 日東北新幹線も八戸・新青森間が延伸した矢先の 3 月 11 日の東日本大震災であった。青森市は幸いにも三陸のような大津波による被害は免れた。青森空港は内陸地にあり、関西などからの物資の輸送の窓口になり重要な役割を担ったと聞いた。

夏の青森は、なんと言っても「ねぶた祭り」である。(国指定重要無形民俗文化財) 本州最北の地に、大型ねぶた 22 台が大地を揺るがし、勇壮に出陣する。闇の中に極彩色の光を放ち、迫力ある勇姿が浮かび上がる。豪快な太鼓の音が響き渡ると、艶やかな笛の音が響き、手振り鉦(テブリガネ)が軽快にチャンカチャンカと囃したてる。そして、ラッセラー、ラッセラーの掛け声とともに、たくさんの跳人(ハネト)が祭りを盛り上げる。市民はもちろん、観光客、元気の良い老いも若きも皆で祭りを盛り上げ、一緒に跳ねる、楽しむ。観覧席の観衆はねぶたに拍手と声援を送り、扇子持ちに指揮されるねぶたの曳き手の抑揚を引き出す。そんな空気が祭りの一体感を作り出す。化人(バケト)と呼ばれるコスプレ達も祭りに花を添える。

ねぶた祭りは、前夜祭、最後の海上運行・花火大会も含め 1 週間開催される。そして祭りの主役のねぶたは、専門職のねぶた師達が 1 年がかりで立案・設計・作製する。4,5 百万円を懸けると聞く。今年のねぶた大賞は、多くの大企業等を抑え『四神降臨「白虎と青龍」』サンロード青森 作：千葉作龍であった。まさにねぶた祭りは青森の一大観光イベントとなっている。博多祇園山笠や小倉祇園太鼓など九州の祭りは、男の祭り。ねぶた祭りは男女仲良く皆の祭りの観である。ねぶたの起源は、奈良時代に中国から伝わった七夕祭りに、灯籠流しが一緒になって「ねぶた」になったと言われている。

ねぶたが終わると青森は秋を迎える。そして、風雪厳しい冬がやって来る。今回私は、雪と辛抱強く付き合い、生きてきた東北の人々の内なるエネルギーを垣間見た気がした。りんごや大間産の鮭や幻の酒「田酒」などなど、生き抜いてきた力と多くの良質な自然の恵みが、確りとそこには存在していた。東北の復興に私もできるお手伝いは、確りしようと改めて思った。

「鳥取県家庭教育推進協力企業制度」 協定証授与式

6 月 29 日に鳥取市で「鳥取県家庭教育推進協力企業制度」協定証授与式が行われました。

鳥取県家庭教育推進協力企業制度とは、企業協力企業) 内で、保護者である従業員が子育てしやすく、また子どもたちを健やかに育てる地域活動に参加しやすい職場環境づくりを進めることを目的とした制度です。

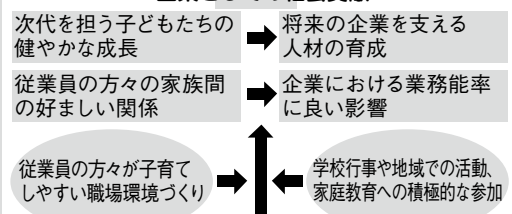
真誠会でも親子や家族で参加する地域活動や職場体験学習など学校や地域と連携した取り組みを行っており、この度鳥取県と協定を結びました。真誠会での今後の取り組みは県のホームページや発刊物で紹介される予定です。



真誠会の全施設に協定証が配られました

企業のイメージアップ!

企業としての社会貢献



市民フォーラム 第2回 認知症サミット鳥取 盛會に終わる



認知症サミット鳥取実行委員長
小田 貢
医療法人・社会福祉法人真誠会 理事長



主催者代表
浦上 克哉先生
鳥取大学医学部保健学科
生体制御学講座 教授



コーディネーター
山田 修平先生
鳥取短期大学 学長



認知症疾患医療センター
センター長 西山 聡氏
医療福祉センター 倉吉病院



新日本海新聞社中部本社
代表 佐伯 健二氏

平成 23 年 8 月 21 日 (日)、「認知症サミット鳥取」は、認知症に関して医師、看護師、介護士、ケアマネジャーなどと市民団体、市民の意見交換の場として昨年誕生し、米子で開催しました。今回は第 2 回として倉吉で開催しましたが、想像以上に市民の皆さんの参加が多く、認知症への関心の高さを感じました。「認知症サミット鳥取」が市民フォーラムとして認知されてきたと確信しています。

来年は鳥取市で開催予定です。

来年もぜひこの会を成功させ、その後は米子から再び中部、東部と循環することで、皆さんと一緒にこの市民フォーラムを育てて認知症に対する理解を高め、認知症になっても安心して暮らせる社会を実現したいと思います。

基調講演 浦上 克哉氏 「認知症予防のできるまちづくりを目指して」

皆さんの中で「認知症になりたくない」という方はおられますか？ 認知症は高齢者が最もなりたくないと言われる病気ですが、近年急増しています。65 歳以上の 10 人に一人といわれ、中でも約半数がアルツハイマー型認知症です。

アルツハイマー型にはアリセプトという薬があり、有効に活用するには早期発見・治療が重要です。さらに今年、3 種類の新薬ができました。うまく使い分けることで、より高い効果が期待できます。

鳥取県から発信した認知症予防の取組みが各地に広がり、全国的な流れになっています。今年、日本認知症予防学会を立ち上げました。多くの方の願いである認知症予防の取組みを確立し、国にも提言していきたいと思ひます。

ディスカッション コーディネーター 山田 修平先生

認知症と診断されることを心配し、受診への抵抗感はあるかもしれません。本当に必要な人が予防教室に参加しないという声もあります。ですが、認知症はみんなの問題で他人事ではありません。正しい知識があれば検診も怖くないですし、積極的な予防も可能です。

大事なことは、みんなが取り組む地域を目指すこと。その地域をつくるのは私たちであることを忘れないでほしい。



活動報告 パネリスト

琴浦町認知症予防教室利用者
倉吉市マグノリア地域包括支援センター
鳥取西地域包括支援センター
鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座
米子市弓浜地域包括支援センター

琴浦町 永代 寿男氏
看護師 津久井洋子氏
保健師 中宇地康子氏
助教 伊藤 靖代氏
管理者 坂本真鈴美氏

ディスカッション コメンテーター

鳥取大学医学部保健学科 生体制御学講座 環境保健学分野 教授 浦上 克哉氏
NPO 法人がいなネット 理事長 小田 貢氏
新日本海新聞社中部本社 代表 佐伯 健二氏
認知症疾患医療センター (医療福祉センター 倉吉病院) センター長 西山 聡氏



ホームズの推理法と老健診療どこが同じ

老人保健施設の 日常

新聞の書評欄で平賀三郎著『ホームズ聖地巡礼の旅』が目にとまり、早速書籍とホームズ文庫本を購入しました。コナン・ドイルのホームズ作品の舞台となった場所をたずねて実際を検証する旅であり、娘たちが欧州旅行でロンドンのベーカー街 221 番 B のホームズ記念館を観光した際の旅先写真を思い出しました。この様な外国旅行もまた楽しみが増すような気がします。

小学生の頃、図書室には学童向けのホームズ全集が置いてありましたが、いつも貸出中になっていて、やっとのことで数冊読んだ記憶があります。この度、新たにホームズ全集を読み直してみると、別のホームズ像が見えてきます。作者のコナン・ドイルは開業医であり（北栄町の名探偵コナンではありません）、開業したものの患者が少なく、暇に任せて作品を書いた執筆活動が、ホームズ物を生み出しました。ホスピタウンでの開業医の経験から、開業当初の外来で暇を持て余していると、才能に恵まれていればちょっと書き物でもしてみようかという気にもなります。

介護老人保健施設（老健）は、“寝たきりや急性期医療終了後のリハビリのため病院に入院して治療するほどではないが、在宅では十分なケアが困難な高齢者”を一時的に入所の上、日常生活面での看護・介護とリハビリによって自立を援助して在宅復帰を行う、病院と在宅をつなぐ中間施設とされています。老健の医療では、急変時の緊急時加算・内服の抗癌剤・麻薬・造血剤・画像診断以外の医療行為は入所費に含まれており、請求できません。入所者の診察に際して検査設備はなく、既往歴と身体所見にて病状の診断を行い、プライマリー治療として鎮痛解熱剤・抗生剤・胃腸薬などの対症療法によって入所の継続、医療機関受診または転院を判断することになります。

ホームズはロンドンで私立諮問探偵の看板を掲げました。ワトソンとの初めての出会いの場面で、医者タイプで軍人らしい紳士であり、顔が黒いが手首が白くやつれが目立ち、腕を負傷した様子から、即座にアフガニスタンからの帰還を推理しています。医療の現場での、診察室に入室されたときの風貌・動作の観察から始まる診断法と通じるところがあります。

ホームズは私立探偵で、自由に事件を選んで解決しており、保険医療機関がロンドンの警察スコットランドヤードとするなら、老健の医療行為は、限定されて原則的に保険請求できないことから、ホームズのような私立探偵になぞらえることもできます。

携帯電話の着信音が鳴り、入所者の異変の報告が届きます。
“さあ、ナカシタ。獲物が飛び出したぞ”（The game is afoot.）



介護老人保健施設
ゆうとぴあ
施設長 中下英之助

小田理事長 講演会活動報告

平成 23 年 7 月 28 日（木）、河崎公民館で平成 23 年度 成人大学講座 第 4 回河崎いきいきふるさと塾があり、「認知症から看取りまで～高齢者が直面している問題～」をテーマに小田理事長が講演を行いました。

小田理事長は、長生きのための健康管理、認知症についての理解や予防、死に対する考え、人生の「生・老・病・死」について語りました。

講演の最後に、参加者全員に白い鉢巻を配り、自分の大切な一言を書いてもらい頭に巻いてもらいました。誰もが鉢巻姿で元気良く盛り上がりました。

院長の講演はいつもウィットに富んでいるので、聴衆は笑いの渦に巻き込まれます。「講演に参加することで健康になったという意識が湧いてくる！」と評判をいただいています。



小規模多機能センター真誠会 ふる里 「和田でワタ作り」プロジェクト ～倒れた綿の木を救え!! 作戦～

西日本を中心に大きな被害をもたらした超大型の台風 12 号の風雨により、和田町の「ふる里」農園の綿の木が、すべて倒れてしまいました。「和田でワタ作り」プロジェクトの和田校区連合自治会長 田邊忠雄氏の掛け声によって地域ボランティア有志が集まり、倒れた



綿の木の一本一本に添え木をする「和田でワタ作りプロジェクト」のボランティア

綿の木を起こしていきました。

近隣のグランドゴルフ場から竹を大量に運び、竹を切る係、割る係、周りの土を踏み固め、綿の木を起こして根元に竹を刺す係と分担しながら、約 3000 本の綿の木を見事に復活させました。

「ふる里」塾長の矢倉玲二氏は、効果的に竹を加工するための方法をボランティアに伝授しながら手際よくノコギリを操り、作業を通じて熟練者の知恵が伝えられていく場面も見られました。



小規模多機能センター真誠会 ふる里

ふる里ギャラリー

「下森令道 鉄道人生 65 年の歩み展」他

米子市和田町のふる里ギャラリーは、電力事情などにより夏期休館しておりましたが、9月に第12回目の展示企画として、大崎在住の下森令道氏(82)による「鉄道人生 65 年の歩み展」が開催されました。職場や家族の約 400 点の写真やスクラップ、趣味の書などを前に、訪れるお客様との会話がはずみます。「人々や



ライブスチームクラブ米子支部 岡田寿博氏の協力により「ふる里」駐車場でミニ SL が走りました

地域の絆を結ぶのが鉄道です。思い出の品を見ながら来場者との絆もできれば」と語る下森氏の人生の線路は、どこまでも続いていきます。

会期中の 9 月 17 日には、ミニ SL 「コッペル号」が「ふる里」の駐車場に来て、地域の子供たち約 40 名が、石炭を焚いて蒸気を出す機関車を見ながら熱心に解説を聞いていました。蒸



ミニ SL の設営に協力してくださった地域の皆様

気圧が高まって SL が走り出すと、後部に連結した客車に乗ったり、追いかけて走ったりしてはしゃぐ姿に、「ふる里」利用者の皆さんが暖かいまなざしを向けていました。

10 月開催の展示は、和田町在住の平井賢次氏(86)による「書」です。10 月 11 日(火)から 31 日(月)まで、入場無料です。お気軽にお立ち寄りください。



下森令道氏(82) 現在は西日本鉄道OB会 米子地方本部で「鉄道OB新聞」の編集に携わる

在宅福祉センター真誠会 富益しあわせデイサービス

セラピー CAT が大人気♥

富益しあわせデイサービスに今年の 5 月新たな仲間が加わりました。その名もセラピーキャットの「あやめ」です。名前の由来は、5 月 31 日に松林に捨てられている子猫を職員と散歩していたセラピードッグ「さくら」が見つけました。ご利用者様に馴染んで頂けるよう 5 月の花「あやめ」と名付けました。ご利用者様からは「あやめちゃんは元気?」「大きくなったね」と大変可愛がって頂いています。今では「さくら」と共にご利用者様に癒しを与えてくれる大切な仲間です。これからもアニマルセラピーを通してご利用者様に癒しと安らぎを提供します。

富益しあわせデイサービスにお越しの際は、是非可愛がってください。



**米子
ホスピタウン
(河崎)**

夏祭り

8月6日(土) 米子ホスピタウン ゆうとぴあ広場にて毎年恒例の「第17回米子ホスピタウン夏祭り」が開催されました。神輿の練り歩きでスタートを切った夏祭りは、地域の方々やかわいい子どもたちによる余興もあり、利用者様も楽しい時間を過ごすことが出来ました。終盤は職員による「マツケンサンバ」で一気に盛り上がり、今年の夏祭りも大成功に終わりました。来年もさらに楽しめる夏祭りになるよう、計画しております。皆様のお越しをお待ちしております。

がんばろう東北!!
がんばろう真誠会!!



「花笠踊り」。太鼓の音頭で踊りました。



「どじょうすくい」。
愉快的踊りで皆さん大喜び。



河崎小学校伝承芸能クラブさんの「ゼニ太鼓」。上手に披露してくれました。

職員による「マツケンサンバ」。盛り上がりは最高潮!



**弓浜
ホスピタウン
(大崎)**

地域福祉交流夏祭り

8月20日(土) に米子市大崎の弓浜ホスピタウンにて「第12回弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り」が開催されました。和田荒神こども太鼓の迫力ある『お祭り太鼓』や地域の皆様による踊りや体操で利用者様や来場の皆様と一緒に楽しみました。屋台ではアイスやカキ氷、たこ焼きなどが振る舞われとっても大盛況でした!!子どもからお年寄りまで皆さんがゲームに熱中し、熱気あふれる夏祭りとなりました。浴衣姿の職員が皆様をお迎えます。来年もぜひ夏祭りに遊びに来て下さい!!

和田荒神こども太鼓さんの「お祭り太鼓」。太鼓の音が響きわたりました。



会場は満員御礼!!
たくさんの方にご参加いただきました。



保健推進員会さんの体操。
会場の皆さんと一緒に体を動かしました。



100発
100中だ!!

職員による『決意』の書です。新人職員全員で書きました!

がんばれ~♪



東日本大震災の復興を祈念して 「新老人の会」第5回ジャンボリー三重大会

ビジョン
夢を天空に描くー新たな日本の再生と創造ー

日野原重明先生 百歳記念ジャンボリーに参加して

医療法人・社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢



2011年10月4日、100歳を迎えられた日野原重明先生。

10月16日(日)、「新老人の会」第5回ジャンボリー三重大会が開催されました。

この大会は、日野原先生の百歳を記念して開催される大イベントであり8,600人もの来場者が全国各地から集まりました。

「新老人の会」には、アメリカ、カナダ、ハワイ、メキシコなどの支部もあります。メキシコからの参加者もありました。また、東北復興への伊勢の物産展もあり、大盛況でした。100歳を迎えられた日野原先生ですが、お元気いっぱい1時間の講演をされました。ピンクのジャケットがとてもお似合いです。

100歳になられた日野原先生は、全く休みなく1時間講演されたということに関して非常に感動しました。しかも自分のことだけではなく、社会全体の幸せや平和を強く訴えられた姿がとても素晴らしく、少しでも見習いたいと思いました。

日野原先生は、100歳の今日まで、「日本の医療の革新」「真の健康とは何か」「本当の幸せとは何か」など、人間として生きる意味を求めて、考え、発信し、そして実践しておられます。強調された言葉は「夢」と「希望」でした。大きな夢と希望を持って前へ進み、行動に移したいと思います。

真誠会の名誉理事長でもある日野原重明先生ですが、「新老人の会」へ、真誠会全体で131人新規入会がありました。

「新老人の会」のモットーは、「愛し愛されること」「新しいことを創めること」「耐えること」です。私たちもこの教えを実行したいものです。

日野原先生のますますの長寿を御祝い申し上げます。

日野原先生の講演の一部

明治の末から大正、昭和、平成という4つの時代にわたる百年間は、振り返ってみるとどの時点をとっても激動の時代といえるものでした。そして、半年前には未曾有ともいわれる大災害が日本を襲いました。

実際に被災地に入り、現状を見て衝撃を受けました。震災により、多くの方が亡くなり悲しみに包まれました。そして、生き残った人たちは、ものすごく罪悪感をもっています。なぜ子どもが死んで、私は生き残ってしまったのか、なぜ両親は死んだのに、私は生きているのか。その苦悩は一生続くのです。その苦しみをどうやって癒していくのか。。。

私たちがどのような生き方をするかで、東北の方の再生にどう役立つかを考えていただきたいと思いまessageを発信したいと思います。

世の中がどう変わろうとも私はいつも自分のできること、やりたいことに無我夢中で取り組んできたように思います。そして、そのうちのいくつかは、それを成し遂げるにはまだまだ何年もの年月を必要としています。

日本は、変わらなくてはならない。市民の大きな力がなにより大切です。

日野原先生のお言葉 百歳からの出発

先人から受け継いだ私たちのいのちは、私たちの子どもや孫たちの世代へとつないでいくものです。私たちが天空に描く大きな夢は、いつかは現実のものとなって私たちにつづくものたちの心を豊かに満たしてくれるはずで。

私たちは、未来に向けてできるだけ大きな円を描き、その完成を次代の人たちに希望とともに託すことにいたしましょう。



夜に行われた大懇親会にて

予告

日野原先生100歳記念講演会開催予定

日にち

平成24年5月20日(日)

会場

米子コンベンションセンター
(大ホール)